◆学校の再編に関するご意見についてのＱ＆Ａ

質問：統合後の学校の場所が決定されたら、子どもの入学前に統合後の学校に通わせたい。通学させる学校について、保護者が送迎する条件で、入学前に選択できるようにできないか。

回答：児童生徒が就学する区域は、「養老町立小学校及び中学校の就学区域に関する規則」の規定に基づき、児童生徒の住所地により規定された就学区域に通学することを原則としている。保護者の送迎を条件にしても、今のところ、選択制は検討していない。

質問：どこかの小学校に統合されるのか、それはどこの小学校か。

回答：どこの小学校に統合されるのか現時点ではまだ決まっていない。それについては、今後、再編準備委員会等で協議し、決定していく。

質問：中学校に小学校が入ることになるのか。

回答：中学校はそのまま。小学校７校について、高田中学校区で現在３校ある小学校を１校に、東部中学校区で現在４校ある小学校を１校にするもの。

質問：徒歩での通学が難しくなるが、親の送迎なのかバスなのか。

回答：事務局としては、遠距離の場合はスクールバスの利用を考えている。

質問：スクールバスの場合、運営費用はどうなるのか。また、どこを集合場所とするのか。

回答：運営費用については、町費分、保護者負担分等が発生してくると思われる。運営費用の負担割合や通学路や停留所等、通学に関わる課題については、今後、専門部会である「施設通学部会」において協議し、その協議結果を受け、再編準備委員会で決定していく。

質問：統合後は、１学年何人ぐらいの児童数になるとお考えか。

回答：学年により人数の開きがあるが、高田中校区、東部中校区ともに１学年約 40 人～50 人、多い学年では 70 人前後になる見込み。

質問：統合後は、のぞみ教室はその統合後の学校で行われるのか。また、統合後は受け入れ人数を増やす予定か。

回答：統合後ののぞみ教室のあり方については、専門部会である「総務部会」で協議し、その協議結果を受け、再編準備委員会で決定していく。

質問：統合の話が進むにつれて思うことが出てきた場合、どこに伝えたらいいのか。

回答：町教育委員会事務局教育総務課までお伝えいただきたい。
（電話または教育総務課あてのメールなど）

質問：統合に向けての進捗状況はどのように住民に伝わるのか。

回答：再編準備委員会や専門部会において協議された内容について、随時、進捗状況を町ホームページや町広報紙等で情報発信していく。

質問：学校の行事や目標など、どこをどう選ぶのか。PTA や子ども会に関しても、これを機に任意の会になれば良いのでは。

回答：学校の行事や目標などは、専門部会である「教育部会」で、PTA や子ども会のあり方は「ＰＴＡ地域部会」で協議し、その協議事項を受け、再編準備委員会で決定していく。

質問：山県方式にしなかった理由は。

回答：山県方式は、一部の授業では交流できるが、学校生活全体を通して交流を図れるわけではないことと、スクールバスでの移動時に時間がかかり、その分、授業が出来ないことや、教職員が把握しなければならない範囲が増えるなど、子どもと教職員の両方に負担感が生じることが懸念されるため。

質問：既存の学校を改修するとのことだが、今ある学校の位置では、防災面に不安が残る。どのように考えているか。

回答：防災面も含め、地理的条件や校舎の老朽化の程度、校舎のキャパや学校の仕様など、様々な観点から総合的に勘案し、どこの学校にするかを検討していく。

質問：養老町で１つの学校にすべきだと思うが。２校にすることは問題の先送りではないか。

回答：本町は「地域とともにある学校」を目指す中で、７校をいきなり１校に統合すると、地域とのつながりを持つことが難しくなることと、本町はエリアが広いため、１校にするとスクールバスを多く運行させる必要があり、スクールバスを利用しても通学に多くの時間を要することとなる。アンケート結果からも、通学時間を３０分以内とすることを考慮し、まずは２校と考えた。

質問：教育の質の担保は必要。通学手段の確保、どこに拠点を置くか。

回答：教育の質を落とすことのないよう、学校運営、教育内容等について、専門部会の「教育部会」で協議していく。

質問：統合することのメリット、デメリットはあるのか。

回答：統合するにしても、しないにしてもメリット・デメリットはそれぞれにある。統合にあたって、子どもたちがわくわく感を持って期待が高まるよう努めていく。

質問：統合の５年後はもっと早まらないのか。可能な限り早く再編してほしい。

回答：新しい学校にするためには、既存の校舎をそのまま使うことは難しい。事務局として少しでも早く統合を進めたいという思いはあるものの、校舎の増改築に向けて、設計、工事を進めていくとなるとある程度の期間を要するため、やはり５年はかかると見込んでいる。

質問：登下校（通学手段、見守り隊の募集など）についてどうしていくのか。また、学校名や校歌、校章、制服などどうしていくのか。

回答：それぞれの協議課題に即した専門部会において協議していく。

質問：学校間交流をもっと行ってほしい。
回答：現在も学校間交流は行っているが、再編にあたり子どもたちの不安や人間関係等の心配が解消されるよう、今まで以上に合同授業や交流活動等を計画的かつ継続的に実施していく。

質問：スクールバスでの通学となる場合、業務提携して外からドライバーを確保してほしい。
回答：スクールバスを使用するとなれば、ドライバーの確保を含め、業者委託をして運営していくことを考えている。

質問：どのように再編されるのか。上石津学園などの意見も聞き、各地区納得できるものにしてもらいたい。
回答：どの学校に再編するかはこれから協議して決定していく。協議事項については、町ホームページや町広報紙等で随時情報提供して周知していく。

質問：各地区の良いところを取り入れるところは再編後も続けてほしい。
回答：各小学校で大切にしてきている伝統や文化など、再編後も継承できるよう努めていく。

質問：今回の再編の目的は何か。それに伴う対策が中長期的に考えて適切なのか。
回答：児童数の減少に伴い、複式学級が編制されている学校もあることから、子どもたちが切磋琢磨できないなど集団活動に制約が生じてきている。多様な考えに触れ、資質や能力を伸ばしていくためには、学校を適正な規模で運営していくことが求められることから、その手法の１つとして、小学校の再編を進める必要があると考えた。
また、中長期的に考えると、２校ではなく１校にすることも検討したが、７校をいきなり１校にすることは、各学校の地域性を鑑みると困難だと考える。将来先には、２校から１校、義務教育学校なども視野に入れて検討していくことになると思うが、現状としては、今回の再編の手法が適切であると考えている。

質問：大人数になると一人一人に目が行き届かないのでは。子どもの状況に合わせ、職員もついて安心して通えるようにしてほしい。
回答：教員の加配など教員配置にも配慮していく。

質問：再編に伴い、通学距離が長くなることが懸念される。子どもたちが安心して登下校できる環境の整備をお願いしたい。
回答：通学距離や環境整備の面も含め、専門部会の「施設通学部会」で協議していく。

質問：学校は新校舎になるのか。それとも既存の校舎を改修するのか。
回答：新たな校舎を建築するとなると、場所の決定や用地の取得などに相当な期間を要することとなる。事務局としては、既存の学校を改修したいと考えている。

質問：今までの学校は、地域の人たちが使用しているが、再編後は、廃校になった学校は使用できなくなるのか。

回答：旧校舎の跡地の問題については、再編する学校が決まり次第、新しい学校運営について協議していくと同時に検討していく。学校の体育館については、各地区の避難所にもなっているため、災害拠点施設として活用していく。また、運動場や体育館については、引き続き学校開放や地域行事に使用できるようにと考えている。

質問：養老小は体育館や校舎も大きいので、養老小学校に統合するのはどうか。

回答：どこの学校を残すかは、総体的に鑑みて検討していく。

質問：将来的に大垣市上石津学園のように高田中学校に統合されるなら、高田中学校を生活しやすい新校舎に直して統合する案もあるのでは。

回答：現状、中学校の校舎を使用するとなると、小学生も使用できるようにトイレや階段等を小学校の仕様に改修しなければならない。できるだけ早く整備をするには、小学校のみの統合が良いと結論づけた。

質問：通学バスの台数は増やせるのか。バス通学の時間の調整によっては、落ち着いた学習ができなくなるのでは。また、子どもの運動量が減るのでは。不登校児が増える傾向も懸念される。対策はとれるのか。

回答：スクールバスの台数については、増便する必要台数を確保できるよう努めていく。バスの通学に伴う運動量の減少や不登校児の増加の懸念事項など、各専門部会において協議検討していく。

質問：小規模校ごとの統合ではなく、一気に２校に再編しようとした経緯は。

回答：アンケート調査の結果からも、１つの学校の１学年あたりの学級数を「２学級以上」を望む声が多く、小規模校ごとの統合では、２学級以上を維持できないことから、集団生活に制約が生じないある程度の規模が必要だと考え、７校を２校にと考えた。

質問：再編に合わせ、不登校の受け皿となる教室も創設してほしい。

回答：学校運営や教育内容については、今後、専門部会の「教育部会」で協議していく。

質問：住民説明会が平日夜に設定されているため、参加しにくい。説明会資料を WEB 公開してほしい。

回答：各７校区の住民説明会が全て終わったら、住民説明会の資料と合わせ、質疑回答も含め、議事録を町ホームページに掲載する予定をしているので、そちらをご覧いただきたい。

質問：小畑と多芸で町民運動会や公民館まつりなど、別々に行事をしていることに違和感がある。再編に合わせて見直してほしい。

回答：再編を行うことは学校だけではなく、まちづくり全体のことに関わってくるので、今後、町全体で検討していきたい。

質問：築４０年以上の校舎がどのようにしたら８０年耐えられるのか。

回答：状況に応じて各学校の校舎大規模改修や耐震補強をしていきている中で、どの学校も建築年数が４０年以上経過していることから、建物を８０年使用することを目指したとしても、２０～３０年後には小学校７校の建て替え時期が一斉に到来するという意味。

質問：片道３０分以内の通学時間をどのように達成するのか。スクールバスなのか。

回答：できる限り子どもたちの負担感がないよう、通学手段等について専門部会の「施設通学部会」において協議していく。

質問：再編するにあたり財源をどのように考えているのか。

回答：再編に伴い校舎を増改築する場合の補助金等があるので、積極的な活用に努めていく。

質問：区の再編もされるのか。

回答：学校の再編を検討していくことは、まちづくりの根幹にも関わることであるため、町全体で検討をしていきたい。

質問：意見聴取して何かしらに反映されるのか。

回答：各小学校での住民説明会でいただいた意見や、QR コードから読みとっていただき、ご意見を募っているが、いただいた意見については、今後の学校の再編を検討していくうえでの参考にさせていただく。

また、いただいたご意見等については、随時、町ホームページや町広報紙等を通じてお答えできるよう情報提供をさせていただく。何かご質問やご意見があれば、随時、町教育委員会事務局教育総務課まで声を寄せていただきたい。